

第33回トルコ ユーラシア大陸マラソン 世界8大陸目のフルマラソンを走る

二
三
年
十
月
五
日

フル百回楽走会

593

武藤 翔峰

平成23年10月16日(日)第33回トルコ・ユーラシアマラソンに参加してきました。この大会はフルマラソン、15km、8kmファンランのほか、タイムや順位を競わない8kmフリーファンランの計4種目があり、110,000人の参加でした。フルには、8,817人が走りました。いずれのコースも、トルコ最大の都市イスタンブールのアジア大陸側からスタートし、美しい街並みを駆け抜け、ボスポラス海峡を挟んで2つの大陸をつなぐボスポラス大橋をヨーロッパ大陸側へと渡ります。フルマラソンと15kmのコースは、アヤソフィアやブルーモスクが点在する歴史地区を抜け、スルタンアフメット地区のヒポドローム広場でゴールを迎えます。私は世界8大陸目の367回目を6:08:12で無事完走、400回目のフルマラソンを赤道のどこかの大会で完走し、地球上の3極点、南極、北極、赤道のフルマラソンを完走するのが夢です。夢は夢を呼ぶ、夢を持って人は輝く、夢は生きる喜び………これからも無理せず、楽しんで走り続けたいものです。



スタート前のスナップ



日本人ランナーと



スタート前のスナップ



ボスポラス大橋を渡る



ボスポラス大橋を渡る



水道橋をバックに

イスタンブールはアジアとヨーロッパの2つの大陸を隔てるボスポラス海峡にまたがっており、よく言われる「東西文化の分岐点」という言葉がまさにぴったりなエキゾチックな都市です。1600年もの間、ビザンチン帝国、オスマン帝国という巨大帝国の首都、世界の中心として栄華を極めました。マラソンの前後には、これら世界遺産に登録されているビザンツ時代を代表する建築のアヤソフィアとその向かいに鎮座する優美な姿のブルーモスク、オスマン朝歴代スルタンの居城のトプカプ宮殿、世界中の物資が流通したグランドバザールやエジプシャンバザールを訪れ、また、ボスポラス海峡クルーズに乗船したり、ヤガラタ橋のたもとでこんがり焼き上がるサバサンドを食べたり、世界の若い女性たちとインターナショナルフレンドシップを育んだり、たっぴりとトルコの良さを堪能しました。



ロシアの女性と



ボスポラス海峡クルーズ



トルコの女性と



ブルーモスク



ブルーモスクをバックに



アヤソフィア博物館

トルコ、アンカラ東南部にある世界遺産カッパドキア。まるで地の果てを思わせる不思議な奇岩群がひしめきあう風景は言葉を失うほどの迫力です。古代噴火によって堆積した火山灰や岩が長い歳月をかけ浸食されて生まれた風景です。地下8階にもなるという迷路のような地下都市デリンクユ、未だ研究が続けられている地下都市カイマクル、岩窟教会を博物館にしたギョレメ野外博物館などが見どころです。幽霊の出そうな“妖精の煙突”、のすべてが、この世のものとは思えない現実離れした雰囲気包まれています。カッパドキアのこれらの奇岩には、円錐型、尖頭型、円柱型、キノコ型、帽子をかぶっているように見える形のものまであります。レースの後、イスタンブールから3泊4日のカッパドキアツアーに出かけ、洞窟ホテルに泊り、奇岩類を堪能しました。

